



子どもの体験と交流・ オンライン配信に関する 地域円卓会議

コロナ禍で失った子どもの文化・芸術体験と交流の機会について振り返り、
これからのあるべき姿（普遍的な）を議論していく

実施報告書

- 日 時： 2023年7月19日（水）18:30-21:30（受付開始18:00-）
場 所： アイム・ユニバースてだこホール 市民交流室（浦添市仲間1丁目9番3号）
＋オンライン（zoom）配信
主 催： 琉球新報社・スタジオレゾナンス共同事業体
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】子どもの体験と交流・オンライン配信に関する地域円卓会議



- 日時：2023年7月19日（水）18:30-21:30
- 場所：アイム・ユニバースてだこホール 市民交流室
+オンライン(zoom)配信
- 主催：琉球新報社・スタジオレゾナンス共同事業体
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- 着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：49名（会場20名、オンライン29名）
（教育機関、企業、NPO・市民団体等）

論点提供 久保田 真弘（琉球新報社・スタジオレゾナンス共同事業体）

コロナ禍で失った子どもの文化・芸術体験と交流の機会について振り返り、 これからのあるべき姿（普遍的な）を議論していく

2020年～2023年まで続き、今なおリスクの収まらないコロナ禍では、実際多くの子どもの体験プログラムや交流イベントが中止になりました。今回の円卓会議では、交流機会の疎外的状況及び地域芸能、地域活動で生じた困難、そして子どもたちへの影響についてふりかえります。特に、イベントやプログラムの中止や縮小に対して現場ではどんな議論をしていたのかを検証し、今後似たような事象が起こった際にはどのような対応をすべきだったのかを考えるとともに新技術を活用したプログラム開発等の可能性も議論します。

センターメンバー



久保田 真弘
琉球新報社・
スタジオレゾナンス
共同事業体



桃原 薫
多良間村教育委員会
(オンライン参加)



中村 圭介
那覇市議会議員



呉屋 淳子
沖縄県立芸術大学
音楽学部 准教授



藤村 謙吾
琉球新報社 編集局
暮らし報道グループ
那覇・南部班

子どもの体験と交流・ オンライン配信に関する 地域円卓会議

地域の困りごとや課題を共有・共有する

コロナ禍で失った子どもの
文化・芸術体験と交流の
機会について振り返り、
これからのあるべき姿
(普遍的な)を議論していく

2023.7.19(水)

18:30 ~ 21:30

① 514 ユニバーステッドホール
市民交流室 + オンライン
(Zoom)

藤村 謙吾
琉球新報社 編集長

(司会) 平良 斗星
(会社) エンターテインメント

呉屋 淳子
沖縄県立芸術大学
音楽学部

中村 圭介
琉球新報社 編集長

(論点提供) 久保田 真弘
琉球新報社 エンターテインメント
編集長

(オンライン) 桃原 薫
明倫学院 校長

主催 琉球新報社・スタジオレゾナンス 共同事業体

協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所 わくわく

論点提供

久保田 真弘 さん
琉球新報社・スタジオレゾナンス
共同事業体

コロナ → 行動制限

沖縄にもともとあった課題では、

ネットワーク形成
子ども文化・芸術体験

3ソシエーション
共同体・自治 支援

ベテラン 30年近く
経験
実演家
として
労働としての
音楽家

コロナ → 音楽家 → 困っちゃう
活動できない

実演家の組合・ギルド 必要
では

↓
受益者 も つかない

子ども 産業化 されていない

那ハ 6時間 → 3年
音楽祭 なくなった
(西表)

やり方も 忘れてしまう
40代
様々な体験が
そう失っていた

旧 → 3日かかっ
ほう 子ども
大人まで
交流 4月
地域のひと
中学生 → 島の人の
交流

コロナ禍で
 沖縄で何が
 おきていたのか
 共有を

支援だけでなくソシエーション

労働組合(3ツカ)
 実演家 地域でも

3年間
 失われた

桃原 薫さん

多良間村教育委員会

多良間村 — 宮古島 — 本島
 330km

丸い島 1000人ちょっと 500世帯
 高枝で島を出る 小+60名/8クラス
 中+40名/4クラス

社会教育

スポーツ

〇〇教室

運動会(学校・島)

修学旅行

8月おどり

デビュー・買えもう
 見たことがない
 子どもたち

先生も参加
 できず、地域に知ってもら

子どもの名前
 おぼえてもら

中止の決定の(ギロ)

かが教室 — 外から講師
 水泳 水泳者 行政 来なく

地域 (3つの字) → 字長あつまって
 はなしあう

すぐは決めない
 3・4月前/1ヶ月前
 に判断 各座も
 いっしょに

子どもたち
 中学生 ⇒ 意見
 できる 練習
 ↓
 発表の場

まち全体へ与える
 影響 大きい

中村 圭介さん

那覇市協会

首里汀良町 しまい

こどもしまい, → おとなしまい
 もある(小中 高校生) 最近小中でわりきた
 継承の課題

2020 十五夜しまい 中止 ⇒ 動画
 配信

何を
 継承
 するのか

まい 神事
 うがみ 伝統

自分たちで
 復活させよう!!
 教員がマシにも

子どもに
 伝える
 影響が
 少ない

2023 復活予定 (9%)

保存会
 自治会

話あっている

使命
 責任

呉屋淳子 さん
沖縄県立芸術大学 音楽学部

民俗芸能 - 社会

学校

みんなが
かかわる

地域
大人・子ども
男・女

地域芸能 ← 概念として
沖縄の文化として
地縁
血縁
どうしたらいいか
クラシック
ポップスも含む

おがみの場

↓
中止になることが多かった

神事の
プロセスを
取りかえ
高年齢であった
命を守る

役員が
いるキボ

行政補助金
入る

5

→ 中止した

小さいキボ ⇒ コロナに因らざる
継続されていた

子どもへの影響

家族以外の
大人と接する
キカイ
が失われたこと

コロナの
前と今

検証が
必要

コロナの前のつながり
は何だったのか. 評価を

人と人との関わりがあった

失われるものがあった

藤村謙吾 さん
琉球新報社 編集局

2020 2月 公演中止 国立劇場

~6月 中止 芸能関係者
収入減

8月 緊急事態宣言
~9月 子ども向け中止

7月 無料半分

2021 公演中止しな... 商業的
公演

2022 中止しな... 子ども向け
中止が多い

▶ 芸能の継承.

今担っている人と中心とつながる
復興を.

▶ どういう意志決定

新報

2020
2021 赤字(4ヶ月)
2022

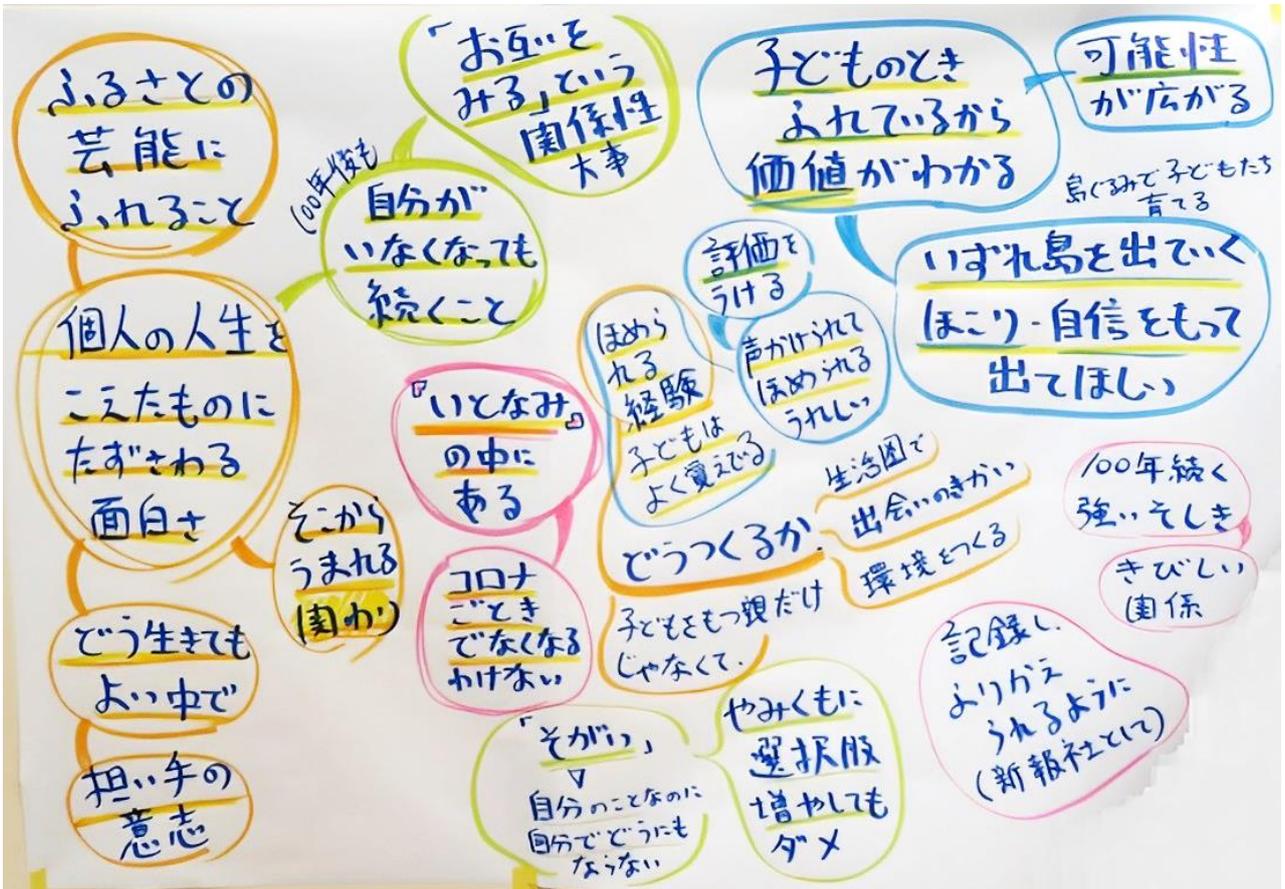
運営ノウハウの
蓄積

サブセッション

子どもの文化体験
人形劇へ助成
海ルーの子どもたち
ことばのかべ
絵を描く。
なくなったNPO
その原因も。
普遍性—芸術
表現できる

コロナでうばわれたもの
えられたもの
（おこなおすこと）
止まるキカイ・選択
子どもの声をきく
キカイへ
好きにしなければ
ならない

継承 → 担い手の減少
青年会の組織率 ↓
先パイとのつきあひ方
（スガ）
地域から求められている
4年ぶりのもりあがり
再解釈・再開発
地域でどう
意志決定するか



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- コロナ禍で阻害された、もしくはもともと阻害されていたことが顕在化した体験を介して行われていた、世代を超えた関係やつながりをもつ機会を、どう設計し直し、強くしていくかということ大きなコンセプトとして今後も議論を重ねていきたい
- 音楽やスポーツ、伝統文化などに触れる様々な体験は、子どもたちにとって新しい出会いや地域の大人とのつながりを持つことなど、社会にデビューする重要な機会となっている。同時に体験を通し、子どもたちが「褒められる」等評価を受ける大切な場であること
- 体験がコンテンツ化しサービスとして提供される機会が増えているが、それを目的とするのではなく、人と人とのコミュニケーションやエンパワーメントするきっかけにするなど、本来の人の営みに還元していく必要があること

■参加者によるサブセッション

コロナ禍で失った子どもの文化・芸術体験と交流の機会について振り返り、 これからのあるべき姿（普遍的な）を議論していく

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

「子どもの声」をきく

立ちどまって好機!!

子どもたちとの対話／工夫

Discussion→子どもの権利

=with コロナ=

⊙うばわれたもの

⊙あらたなとりくみ

・子どもたちの変化

・問い直すじかん→そもそも何したかった？

イベントが中止になってよかった!!

→選択の余地ができてよかった。

密すぎた／過剰だった

近代化によって失われたもの…

=After コロナ=

「冷静さ」

ネガティブなスタンスなのか？

次に向かうためのおやすみというスタンス？

／事業の担当 PO

／県芸の先生。おもしろい問題×新しい人

円卓っておもしろい！

／文化振興会 沖縄アーツカウンシル PO

助成金事業、玉子やきが好き

ネパール暦のおまつり

／ネパール・ちょうタラ・壁画×女性

国際協力 save the children→JICA

32年!!Africa、コミュニティ開発、

×自治／自助／ファシリテーション

MFOで休眠×コロナ事業

②

・ アートの場づくり

お祭りのないかわいそうな世代の当事者視

点でコロナ禍の意思決定を知れた

・ コロナ以降 失ったものを補うようにチャレンジできる動きが増えた

ex. 首里ギャラリーなど

→困難なことに目がいったので

実演者として 新鮮

・ 文化／芸能

不要不急のどちらに該当するのか

コロナ禍で常に考えることだった

・ 作品をつくるよりもコミュニケーションのツール 世代を超えた

・ 芸能を受けとるだけのものだと思っていたけど…

⇒どこか「不要不急」でもがまんできると思っていた

☆どうこれからコロナ禍の経験を活かすか？

・ 形だけではなく知らない人とコミュニケーションすること⇒体験が大事！

・ 部活動で発表の場にリアルではなくオンラインにした 気づきがあった

③

・ たらま中学生が要望出して

またか 受け入れむずかしい

・ コロナ前どうだったかが

キーワードになる

・ コロナ前のこと大切

ライブ配しん

・ 配信を用いてどのような

・ 配信とライブの差が

・ ノウハウの必要性

・ 音、映像遅れ

・ zoom 他の人の話

- ・ 通信から仮想へ
- ・ 芸能によってはオンラインでも可のものもある
- ・ zoomによりつながれる場もあった
- ・ コロナ禍で深化した

④

(論点提供)

- ・ 小キボはやっていた
責任者がいないものはやってしまった
→責任を取るのが嫌だから中止
(アウトドア・キャンプ・災害・健康長寿)
- ・ コロナ前どうだったか
→つながり、機会が失われた、名前わからない、都会、隣り、
名前わからない→コミュニケーションなし、
つながり(かんきょう)がなくなっている、
極論かな
災害、国、県、村、金がなくなる
文化が残る
かんきょう、社会がある中での文化
→どういう影響?
→比かくが必要

☆代替手段ー動ガ、配信

他の方法もある、取りうる手段のひとつ

コミュニケーションの手段

災害→地域を捨てる人もいる

残ってふっこうしたい、文化

世の中にとって文化、芸能のあり方⇄

コミュニケーション⇄つながり

深みが出る

文化ー地域に力がある

昔慣れたしんだもの 楽しいもの

文化は何?

エンターテイメント、祭りだけではない

ひとりひ

(新報)

慣習も文化 飲むのも文化

コロナでライフスタイル変わった

家族の関わり増えた

コロナ前、コロナでどうなったかの検しよう

なんでもコロナ前に戻すということではない

子どもの1年、大人の1年

中学1年間 コロナ禍で

- ・ 地域の大人との接しよくりつ
ー大人と子どもの対話を増やす 1対1で
地域の文化、仕事
→地域以外のこと
人を通して地域の文化、風土、風景感じる
外国に比べて、日本は他人との関わり少ない
大人とのかかわり コミュニティ 位場所

⑤

地域芸能の担い手は減っているのか?

→調査に行けなかった(コロナで)が、

青年会の組織率が激減

・2022年の沖縄市エイサーはもりあがっていた

ていろんな大人とのふれあいがたんぼされる

今年の糸満ハーレーも「これぞ地元のまつり」

のもりあがり

名物があるところは強い

(あわせのチョンダラーは第1～第3でもりあがりがちがう)

地域芸能

伊江で「先輩とのつきあいがむずかしい」

上下ヒエラルキーに 30代以降はたえられない?

子どもへの継承はどうすればいいのか?

継承→けんい化によって守られる

→しきいを下げることによって人口をふやす

↑地域の人がどう判断するか

「自治」が大事なのは

どこを守りどこを変革するか

文化芸能は不要不急ではない

配信をスマホでみせる

→芸能への入り口になりうる

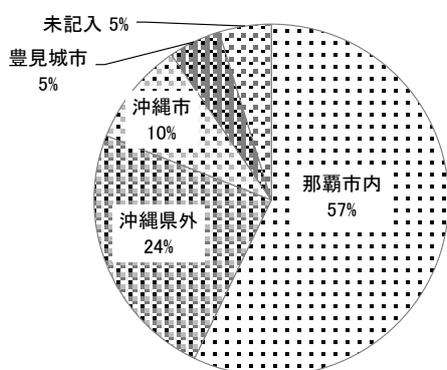
→(親としては)あまり見せすぎたくない

子どもの体験と交流・オンライン配信に関する地域円卓会議 参加者アンケート集計

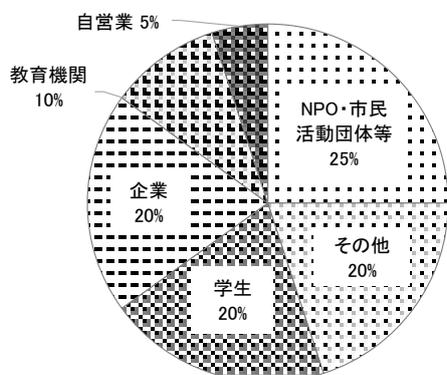
◆概要

- ・日時：2023年7月19日（水）18:30-21:30
- ・場所：アイム・ユニバースてだこホール
市民交流室＋オンライン(zoom)配信
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：49名（会場20名、オンライン29名）
（アンケート回収21名、回収率43%）

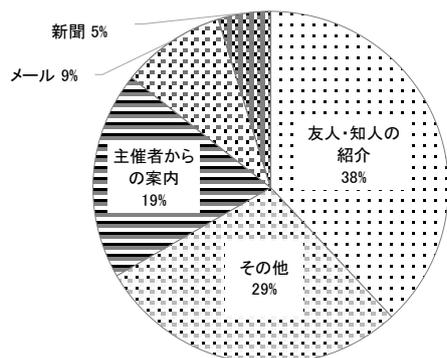
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4（5点中）

満足度	5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
人数	9名	12名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 様々な人が声を交わしあっていて、自分も輪の中の一員と思えたこと。また着席者の方々が議論の内に互いの言葉を取りこみながら柔軟
- ・ サブセッションもすごく活発で、参加者も多く良かった
- ・ 複数のセッションを重ねながらディスカッションが深まっていくという体験ができました。ひとつのテーマで様々な立場からの意見を伺えて本当に勉強になりました。いろいろな事例も知れて良かったです。
- ・ 一人で思いつかない多くの気づきがあった。
- ・ 一方向だけのコミュニケーションにならず、多くの議論ができたことが大変良かったです。時間通りに終了した点も大変良かったです。
- ・ マルチレイヤーで色々な論点がさくそうするテーマをまとめることができた。
- ・ CFJ の研修で学んだ内容をもとに実際の運営を見ることができたため。
- ・ 多様な人の意見価値観に触れられたと感じるから。
- ・ 実際にどのように円卓会議が進められているのか、オンラインではありましたが実感できました。

(4. 概ね満足)

- ・ テーマが壮大で自分の中で処理しきれないもので4です。
- ・ 新たな気づきがあった
- ・ 様々な視点からのお話しが聞けた事
- ・ テーマに対して実施企業としてヒントを頂きました。
- ・ 知見を得られた
- ・ 新たな視点をもてた
- ・ 来月加賀市でも円卓会議を行うことになった。今回は円卓会議の実査を見ることが目的だったので、最後までしっかり見れて満足した。
- ・ コロナ禍による影響や地域で起きた変化についてより具体的に知ることができ、それに対する様々な意見や考えについて知ることができて良かったと感じた為。
- ・ 有意義な指摘がたくさん出たと思います。
- ・ 手段としての体験ではなく、本質的なところに意味がありそうということが会議の中で見えてきたことで、テーマへの問い直しが行われたあるいは次に考えるべき道筋が見えたように感じました。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ ほめられる体験—ほめてあげられるおとなになることを自分自身の生活の中で具体的に想像するというお話が印象に残りました。3.11で町外避難を強いられた双葉町で先日12年ぶりに町内での盆踊りが開催されましたが、外の人ではなく町民が中心にこの日をあきらめずに、町外でできることをして継続できたことが何より大事だったかもと、今日のお話を聞きながら感じました。
- ・ コロナ前とコロナ後のつながりの比較
- ・ 「ほめられる経験」を社会でどう生んでいくかというシンプルなアイデアは、シンプルだけどとても印象的でした。音楽、芸能を支えるキーワードとして「自治」という言葉

を久保田さんが使われていたのも印象的でした。

- ・ 「肯定的な選択肢」を増やす、というフレーズが良かった。「ほめる機会」をつくることの困難さも改めての気づき
- ・ ネットワーク形成のアシスト（アソシエイト）
- ・ 発表の場をつくる
- ・ コロナ前の状況を考えて、コロナ後の活動を考える
- ・ 新技術を活用したプログラム開発等の可能性の議論も行ってほしかった。”
- ・ 個人の人生をこえたものにたずさわれる、印象に残った言葉です。
- ・ 「営みに還元する」妄想がはかどる言葉だと思いました。
- ・ 「子どもの課題は、子どもえお巻き込んで議論すると子どもが求める本質に繋がるのではないか」
- ・ 文化芸術の体験そのものが地域や人にとってどんな価値や役割があるのかを歳認識と気づきのある場でした。ほめる、しかられる→つまりは認めてもらえるような／向き合ってもらえる関係／環境をどうつくれるか？
- ・ 親とはちがう様々な大人（価値観）との出会いをどうつくるか？義務教育との接続可能性も考えたい。様々な立場の子ども（ヤングケアラーなど…）ともどう出会えるか届けられるかも考える必要があるように思えました。
- ・ 営みに還元する
- ・ ホメることの大切さ
- ・ 文化、芸能を営みに戻す
- ・ 参加者が自分の考えをしっかり持ち、話している様子が印象的だった。立場の違う人の話だったがそれぞれテーマを離れず話しておられた。
- ・ 地域芸能を通して、子どもたちが地域に出

た時に、それをどのように評価（褒める）していくのかについて考えるきっかけをいただきました。これから当財団が助成している団体が地域の盆踊りの復活を子どもたちと実施していく予定のため、非常に良い視点をいただきました！

- ・ 続いてきた伝統に良くない影響を受けはしたが、コロナ如きでは無くならないという旨の言葉が非常に印象に残った。
- ・ 過去から繋がってきた伝統文化の中で自分を位置付けることで見える、生まれる視野が、自分から離れるところ（無私？）をつくるといったお話。文化の継承。
- ・ 地域で子どもを育てる、というお話の中の指摘。「子どもをもたない人にとって、いくつかのコミュニティは、阻害されていないが、参加しにくいものになっていないか」
- ・ 感想になるのですが・・・伝統芸能に小さい頃に触れることの意義（自分の人生より永いものに関わる面白さ）については強く共感します。大人になり（自分の人生を引き受けて生きていくフェイズになり）、否が応でも自分は何者か？を突きつけられたとき、自分の幼い頃の経験から自分を担保するパーツを探してくるように思います。自分の出身地の外に出て出自を問われるような場面でより強く感じるとは思いますが、自分自身に対する誇りのひとつの根拠になるような気がします。
- ・ 褒められる体験が重要というのも共感します。今日は伝統芸能・地域芸能の話が色濃かったのですが、真剣に取り組み、発表の場で労われたり褒められたりすると「それをやった」という履歴が自分の自信になっていくという点では、学校でセッティングされた活動や部活にも言えることなのかなと思いました。
- ・ 今日は最後に久保田さんから「営みにかえ

すこと」という話が出て締めとなりましたが、そこからさらに一步進んで地域の立場から考えると、「自分の地域では子どもにどう対峙していきたいのか」地域としての価値観を地域ごとに見つめ直す、ということが問われるのだろうと思います。私のグループでは、多良間では子どもたちへの関わり方として「島の宝」「島全体の子ども」というような姿勢があるというお話が桃原さんから出ましたが、このように「みんなの子ども」という眼差しで地域のこどもたちを見ていくのか、それともほかの価値観に起因する眼差しで見ていくのか、地域それぞれ価値観に特色があると思います。また、仮に「みんなの子ども」という目線で見ると、この価値観が共有されている地域であれば、やがてこの子が大人になったとき自分の中に誇りの担保となるものがあることに気づき、自分は永く続く営みの中の一員なのだという肯定感を持って生きていけるはず、というところまで想像しやすいかもしれないと思いました。

- ・ 何より文化芸能がコロナによって打撃を受けているのは分かりはしますが、課題の精度が円卓会議の場によってここまで深まっていたことが一番印象的でした。
- ・ 1人の人生を超えたものに携わる選択肢として伝統芸能があるという言葉が印象的でした。

7. 会議運営に関してのご意見、感想等

- ・ 音響、映像がすばらしく、会場の様子がよくわかった。
- ・ 運営に関しては円滑に進んでおり、特に不満は無かった。ただ、グループワークの際の記録シートが誰も使用出来なかったのも、チャットに書き込む等 ZOOM 内の機能を活用して記録できれば良かったと感じた。
- ・ スムースな運営をありがとうございました。

何もお手伝いできず恐縮です。。

- ・ やはり司会と記録者の運営は「職人」だなど
思いました。それだけ実践を重ねられてき
たことが今回実感できました。参加できて
よかったです！
- ・ 平良さんの素晴らしいファシリテーション
に感動しました。

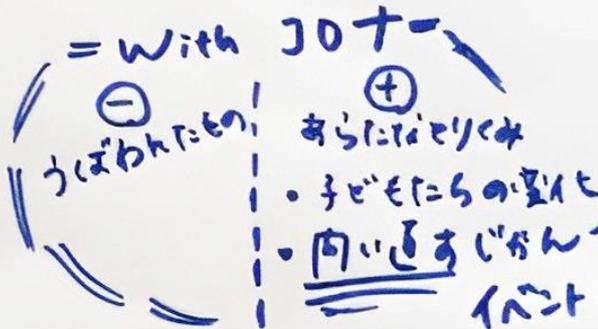
(写真) 会場の様子



「子どもの声」をきく
おちどま?? 女子学生!

ききも何したにが
た:??

子どもたちとの
 対話/工夫
 Discussion



近代化
 による
 失われた
 もの.....

子どもの
 権利

「合群」

After JO+

イベントが中止に
 なった!!

本が「イ」
 た「ス」
 「の」か?

次に「何」が
 「の」の
 お「ま」み
 と「ス」
 「の」か?

→「JO+」の余地が
 できた!!

「JO+」
「JO+」

1 事業の担当PO

1 泉芸の先生。おもしろい問題×新しい人
 円卓でおもしろい!

1 文化振興会 沖縄P-71のりしにPO
 助成事業, 玉手箱が女子。) 本「-」の
 お「ま」み

1 本「-」のち「の」ら, 企画×女性

国際協力 Save the Children → JICA
 32年!! Africa. 本「-」の「ま」み

MFO「」

「本」×
 「JO+」

×自治/自助/

「JO+」

- ・ アートの場づくり
お祭りのない町にいざなふための
当事者視点で
コロナ禍の意思決定を考えた
- ・ コロナ以降 来たものを補うために
知レインジでできる動きが増えた
ex. 首里 ぎょうり - ねと
↳ 困難なことに目を向けたのか
東郷 2022 新群

- ・ 文化/芸術
不要不急のどちらに該当するのか
コロナ禍で常に教員を考えた
- ・ 作品をつくるとも
コロナへのアクションの1つとして
思いを起した
- ・ 芸術を受け取るだけのものかと思っていた
17歳...
⇒ 必要不急、受け取れると思えてきた
- ・ どうにかからコロナ禍の経験を話せるか
・ 形作は存在からか...とコロナへのアクションは
⇒ 体験が大事!
- ・ 雑誌などで発表の場は1つに止まらず
オンラインにした方がいい"ま"があった。

- 4月 中学生が希望として
ITを 活用したのか
- コロナ禍の状況に
対応したのか
- 展 示の場は
オンライン
- 展示場を
活用したのか
- 展示場を
活用したのか
- 展示場を
活用したのか
- 展示場を
活用したのか

- ・ ~~IT~~
- ・ ZOOM 他アプリ
- ・ 配信から体験へ
- ・ 芸術への対応は
オンラインでも可能
だった。
- ・ ZOOM だけでなく
他アプリも
あった。
- ・ コロナ禍で
変化して

(論点提供)

- 少年ホはホコした
責任者がいかにホコした
→責任を取るのが難しいから中止
- (アクトやキャンプ、災害、保護活動)
- 30年前ほどはたまたま、ホコした
→つたが、機会が減少、30年前ほどは
都会、40年前ほどは→コミュニケーションの
障り
→つたがなくなるとして、極端な
災害、風景、社会がなくなると
文化がなくなる
かんきょう、社会がまじりの文化
→どういふ影響?
→上にかかると
年代替り年輪 - 動か、配信
他の文化もある、新しい年輪の
まじり、コミュニケーション年輪

災害 → 地域を分けて人々には
必要不可欠な役割、文化
文化の中核として、文化、美能のあり方
深さが出る ↓ ↑
文化 - 地域にかかると コミュニケーション
昔、懐かたしなものを ↓ ↑
新しいもの コミュニケーション

文化は何?

30-40年前、祭り文化はな
なると

(新証)

かたしな文化 食文化
30年前、2914 常木に
家族の関わり増えた
30年前、30年前ほどはたまたまの文化
7年前、30年前に戻るといふことはな

30年前、大人の年

中学生の関わり

30年前

地域の文化と人々の関係

地域の文化、10年前、10年前
→ 地域以外から

人を通じて地域の文化



外国に比べて日本は大人の関わりが少ない
大人との関わり、コミュニケーション
場所

地域技能の担い手は誰になる?

→調査に行けた(2018)の
青年会の組織率の激減

2022年の堺市工費一は増えている
という大人と若者がいる(要した)

今年の新築ハレセ「本」地産物」の4割が
4.中物があるとは限らない

(若者の労働力は第一等ではない(65歳))

地域技能

伊江「先輩と若者がいかに共存」
上下世代ともに30年代後半は未だ...

子供の継承はどの程度あるか?

継承 → 何らかの形で守られた

→ 若い世代はこれと対峙している

地産物
地産物
地産物の判断が可なり
「自治」が大事なのは

文化芸術は不要不急ではない

配給システムをどうせよ → 技能への入り口になるか?

若く見せればなる

